

令和２年度第１回京都市美術館協議会 摘録

1 日 時

令和２年１１月２５日（水） 午後２時３０分から午後４時まで

2 場 所

京都市京セラ美術館 講演室

3 出席者

(1) 委 員

ア 会 場

赤松玉女委員，井田彪委員，阪脇郁子委員，篠原資明委員，
島田康寛委員，白波瀬誠委員，田中克明委員，深井晃子委員，
細見良行委員，吉水絹代委員，渡辺信喜委員

イ オンライン

荒木美弥子委員，逢坂恵理子委員，加須屋明子委員，
建畠哲委員（途中退出）

(2) 京都市

門川大作京都市長，北村信幸文化芸術政策監，青木淳京都市京セラ美術館長
ほか

4 傍聴者

３名

5 次 第

(1) 開 会

(2) 委員紹介

(3) 挨拶（京都市長 門川大作）

(4) 挨拶（京都市京セラ美術館長 青木淳）

(5) 議 事

ア 令和元年度事業報告・決算について

イ 令和２年度事業計画・予算について

ウ その他

(6) 御礼挨拶（京都市文化芸術政策監 北村信幸）

(7) 閉 会

6 議事摘録

議 長	令和２年度第１回京都市美術館協議会の議事に入る。 はじめに、議案書の「令和元年度の事業報告、決算」及び「令和２年度の事業計画、予算」を事務局から説明いただく。
事務局	(１) 令和元年度 事業報告 (２) 令和元年度 決算 (３) 令和２年度 事業計画 (４) 令和２年度 予算
議 長	委員から、ただ今の報告に対する御質問を含め、御意見等があればお伺いしたい。
委 員	議案説明を聞いて、京都市京セラ美術館の意欲的な方向が見えてきたと思う。一番素晴らしいのは常設のコレクションルームができたことだ。今までもコレクションがテンポラリーに公開されることはあったが、今後は常設展示に力を注ぐようで、今回の青木館長による再整備の大きな成果であると思っている。 また、東山キューブ、これはコロナ禍のため杉本博司展以外は順調に展開できていないようにも思うが、コレクションルームと合わせて大きな相乗効果をもたらすのではないかと嬉しく思っている。 京都というまちに位置する美術館としてローカルなセンターではなく、世界のハブ、世界の美術がそこに集まり、そこから出ていくというような役割が発揮されるのではと期待している。今はコロナ禍なので国際的な活動が制限されているが、フル稼働していくための基盤は整っているのではないかとと思っている。 例えばロンドンにはターナー賞、パリにはデュシャン賞があるように、こうした賞が新設されないか。例えば「若冲賞」のような新しい息吹を感じられ、かつ日本に親しみを感じられるような名前を冠した賞である。日本の中から一人選んで表彰する。こうした賞を設けることで、京都市美術館が世界のハブに位置する美術館として注目されるのではないか。新しさや斬新さを感じられる京都ゆかりのアーティストの名を冠した賞があってもいいのではないか。 再整備後、色々な建築賞を受賞している。地下を掘り下げて下から入っていくアプローチにするなど、大胆な構造の変革があったにも関わらず、歴史的な本館そのものが温存されているためか、「元に戻りましたね」と言う人がいたというほど、本来こうだったのではないかなと思うような、素晴らしい改築であった。これは素晴らしい資産であると思う。
委 員	ザ・トライアングルや高橋匡太氏のライトアップなど、若い人たちが

	館の外側でも盛り上がっている様子が見受けられ大変良いことだと感じた。今後どのように続けていくのかお考えを伺いたい。
館 長	ザ・トライアングルでの取り組みについては、今のところ京都に関わる若いアーティスト、できれば「これから」という作家を育てていきたいと考えている。まだ有名ではないようなアーティストにお願いしたいと思っているが、今年度はリニューアル1年目なのでかなり有名な方を選んでいる。来年度からは3人半分の実施を目指して、展覧会の企画を進めている。利益が上がる場所ではないが、美術館の重要な核だと思っており、費用をあまりかけず、かつ若い人たちに関わってもらいたいと思っている。関東だと水戸芸術館などでやっている取組のようになったらいいなと思っている。
委 員	京都市京セラ美術館メンバーシップという制度がある一方で、京都市キャンパス文化パートナーズ制度というものがあるが、このふたつは重なり合わないものなのか。
館 長	メンバーシップとキャンパスパートナーの関係についてだが、キャンパスパートナーについては、京都市の取り組みで、公益財団法人大学コンソーシアム京都に加盟する大学及び短期大学の学生については常設展示が100円になるというものである。 メンバーシップはこれとはまた別のものであり、いわゆる美術館の賛助会員という位置付けである。加入いただくと、コレクション展の観覧が無料になる等、様々な特典があり、館を支えていただくために別途設けているものである。
委 員	国立美術館キャンパスメンバーズのように、キャンパスパートナー制度について地域限定ではなく対象を広く開くという予定はあるか。それはメンバーシップが担うということか。京都市立の美術館である以上仕方のないことかとは思いますが・・・。
館 長	まずは京都市の大学政策として研究すべきかと思う。
委 員	常設のコレクションルームの設置により、コレクションがより市民に開かれ、子どもたちにとって美術館がより親しめる場所になると期待している。そういう中で、コレクション展の入場料が今は京都市内の人だと小中高生は無料、一般の方は520円となっているが、なんとか一般料金も無料にさせていただき親子ともども美術館に親しむ状況が出来ればと思う。
副館長	常設展の観覧料金について、美術館の年間運営経費が年間15億円となっており、非常に大きな額、今は5億円程を税金から補填しなければならない状況である。常設展の収入は4,000万円程を見込んでいる。

	観覧料を軽減できれば良いのは間違いないことではあるが、現状では難しい。
委 員	状況は理解できるが、今後前向きに取り組んでいただきたい。 もう一点、美術館の教育普及事業について。近辺の美術系大学と提携、連携して新たな展開ができないかと思うが、いかがか。
館 長	ぜひそうしたいと思っている。今年度については、まだリニューアル初年度ということもあり、そのための計画が進んでいかなかったというのは確かである。また、コロナ禍で実際に人が集まることが難しい状況でもあった。来年度以降、館内のラーニングチームで考えていきたい。
委 員	京都にはたくさんの芸術系大学があり、本館の方で今年度から久しぶりに卒業制作展、作品展が始まる。京都市立芸術大学では卒業修了年度の学生作品を見てもらうのではなく一回生から作品展に参加し、市民の方に基礎段階から、どのように育っていくかを見せていくことに取り組んでいる。今回、美術館が美しくリニューアルし、そこで作品を並べることを学生達も先生方も楽しみにしているところである。 ザ・トライアングルについても、京芸出身の鬼頭健吾さんや木村翔馬さんが展示をさせていただき、こうして先輩たちが一定期間展示させていただいたことは学生にとっても良いことであり、新しく生まれてくるものを見る機会やコーナーができたことは有難いと感じている。ここでワークショップなどに学生たちが関わっていくことができれば学生達にとっても学びの場になると思う。 京都の子どもたちや市民の方々に、多くの新しい芸術を楽しんでいただき、理解いただき、ファンになっていただき、支えていただくことが、京都市京セラ美術館を舞台に出来ていくのかなと期待している。
館 長	できる限り幅広い芸術系大学と連携したいと思っているが、今回、例えば KYOTO STEAM など、まだ大学に在籍中の学生さんが作家の設営の手伝いに来る風景が見られた。これもおそらく学生たちにとって大きな糧になるのではないかと考えており、そうした機会をなるべく増やしていきたいと思っているので、よろしくお願いいたします。
委 員	だいぶ前の話になるが、台湾の国立故宫博物院でハンガンの絵を見た。その際、小学校低学年くらいのグループがおり、学芸員らしき人が絵について楽しい話をして子どもたちが笑っていた。美術館というのは別世界、肩ひじを張ったものというイメージが大人の中にもあるが、将来のファンを作るという意味でも、台湾で見たような、小さいときから面白い話で参加させる、「あそこに行ったら面白い」と思えるような、気楽に親しみを覚える取組があればいいと思う。

館 長	子どもたちだけではなく、美術館は敷居が高すぎて、中では静かにしてはならない、喋ってはならないという意識がある人が多く、そうした環境になってしまっている。そうではなく、楽しく見る見方もあると思うので、そのためにどうしていったらいいか館内で協議しているところである。御期待に添えるように頑張るので、よろしくお願いいたします。
委 員	予算等数字についての感想を述べたい。まず、常設のコレクションルームができたことは大変結構である。これは、美術館として当然のことであり、この方針をきっちり貫いていただけるのだろうと思っている。 一方で、収蔵作品について3,700点という数字に驚愕した。少なすぎる。今何点ほど展示されているかは分からないが、展示替え等バックアップができるのか大変心配な数字である。 また、新規作品購入費についても資料を見る限り2,500万円かと思うが、一般的な日本での状況だとこれで良いのかもしれないが、他の国々からすると、あまり公表したくないような数字かと思う。 是非コレクションの展示を盛んにしていこうと思っているのであれば、そのあたりの御認識もいただきたい。
副館長	コレクションの点数について、委員のおっしゃるとおり、多くないどころか少ないという御感想も館の長い歴史を考えると当然の御意見かと思う。このような状況から、協議会から答申をいただき、収集方針を新たに固め、再整備を機に作品の収集を計画的に行うべしと取り組んでいるところである。昨年度だと購入が81点となっており、限られた予算の中ではあるが、できるだけ良い作品を計画的に収集していきたいと考えている。 また、2,500万円という金額が十分かという点、他はもっと多いと言えばそのとおりかもしれないが、わが国を取り巻く美術館の状況の中でこのような数字になっている。かつてはなかなか計画的に予算を確保できない時代も長くあり、今回の再整備を機に2,000万円の予算をつけていこうと取り組んでいる。財政的には厳しい状況だが、この予算は一番大事にして取り組んでまいりたい。
委 員	他の委員の御意見にもあったとおり、美術館とはいえ資金が大事であり、メンバーシップで法人会員をもっと広げていきたい。資金がないと良い絵を購入できないし、若い人たちに無料又は安価で展示等を楽しんでいただくこともできないであろう。 京都市の美術館であるから、市民に開かれた美術館ということで様々な人が参加して楽しんでもらえるというのは非常に大切なことである。京都市美術館というのは、歴史も長く日本でも代表的な美術館であ

	ることを考えると、世界の良い作品をもっと見せてあげたいという思いがある。今はコロナ禍でなかなか難しいかもしれないが、また、予算もかかるかもしれないが、世界も視野に入れた次元での作品を見ることも、子どもたちにとって大変良い教育になるのではないと思う。 市もそうだが、メンバーシップにおいても法人会員を増やしていくことに力を入れていただきたい。よろしく願います。
委 員	以前開催していた「京展」のような公募展は、若い作家を育てていくうえで非常に意義のある展覧会と考えるが、今後の開催についてお考えを伺いたい。
副館長	「京展」は、美術館の歴史とほぼ重なるほどの長い歴史と伝統があり、これまでたくさんの作家を輩出してきている非常に重要な展覧会である。また、市民の皆さまにおいては、「京展」へ応募することを楽しみに創作活動をされてきた方々もいる。 再整備前は毎年開催してきたが、開催に当たりスペースの問題や審査員選定等の課題があり、再整備中は取り組むことができなかった。「京展」開催についてお問い合わせいただくこともあり、今後について検討しているところである。
委 員	コロナ禍で館内での感染対策も大切であるが、一方でウェブを介した発信や内容の在り方についても大切である。ただ作品等を見せるだけではない、鑑賞にも繋がるようなコンテンツの在り方やトークの発信など、新たな試みを検討しているかお聞きしたい。
館 長	コロナ感染拡大時から、美術館の中で、来ていただいて観るのを「オフラインミュージアム」、これに対して「オンラインミュージアム」という2階建で美術館を考える必要があるという話をしている。オンライン、つまりネットで観る・体験する美術館になるが、その中のひとつは、委員のおっしゃるとおりトークや座談会などがある。またそれだけではなく、まちに出て行って話を聞いてくるというようなこと、それからもちろん展覧会のことなど、様々なことが発信できると見込んでいる。これも予算がかかることなので、すぐには始められず、今のところ YOUTUBE には若干動画を乗せることを始めている。将来的にはアーカイブ化して、美術館の活動を遠方の方や体が悪くて来られない方、国外の方にも見てもらえるように育てていきたい。軌道に乗っているとは言い難いが、これからも取り組んでいきたい。
委 員	実際に観る体験には代えがたいが、本日リモートで参加できているように、こういう状況ならではの利点を感じているので是非願いたい。
委 員	コロナ禍で厳しい中でのリニューアルオープンであったので、まず

	は、関係者の苦労を労いたい。 今回の再整備の特徴は庭園が整備されたこと、それから前面にカフェ、ミュージアムショップが整備されたことかと思う。展覧会の充実や教育普及以外に、こうした施設の整備によって、今回何か新しい気付きや、お客様の層の広がりの実感等あればお聞きしたい。
館 長	実際のところ、展覧会に入る方と展覧会は見ないが美術館に来た方の比率としては、かなり後者が多い。その一つの大きな要因はカフェである。定員を絞っている影響もあるが、営業時間中ずっと待ち列ができるほど賑わっている。また、カフェの閉店時間が閉館時間よりも遅いためか、夕方以降が寂しいと言われるここ岡崎に夜の賑わいが創出されてきたと感じる。 また、建物については、コロナの影響で今はできないが、本来的には動物園と神宮道を繋ぐ大きな道ができたようなもので、道として館内を通ってもらうことで、展覧会にも寄ってみようかなと気軽に美術館に入っただけで機会が作れるのではと思っている。コロナ禍でまだそこまでオープンにできない状況であるが、庭園に来ている人の数を見てもコロナさえなければ本来的なねらいがうまくいくのではないかと感じている。
委 員	京都市京セラ美術館にはオープン以降、何度も訪れている。新型コロナウイルス対策もしっかり取っていただいております、安全に安心して美術を楽しめるという環境を作ってくれていると思う。 来館者200万人が目標というお話もあったが、様々な美術館、展覧会においていわゆる数で競うというのはコロナ禍においてなかなか厳しい状況にあると思う。しかしながら、予算・採算の見合うところで、小規模でもトライアル、実験的なワークショップやラーニングなどを重ねて、裾野を広げる取組は是非頑張っていただきたいと思います。
委 員	来年度開催予定のウォーホール展、楽しみにしております。
議 長	多くの御意見をいただいた。今後の運営に生かしていく。 定刻となったので議事を終了とする。